

令和6年度（2024年度）の学校経営方針

広島大学附属福山中・高等学校

校長 半井 健一郎

広島大学附属福山中・高等学校は、そのミッションを以下のように定め、下記に掲げる教育理念に基づく学校教育目標の実現に向けて、教職員が協働して絶えざる努力を払います。

附属福山中・高等学校のミッション

本校は、教育基本法ならびに学校教育法に基づいて中等教育を施すとともに、広島大学の附属中・高等学校として、以下の事項を特別の任務とする。

- （1） 広島大学との密接な連携のもとに、中等教育の理論および実践に関する高度な研究を推進する。
- （2） 広島大学との密接な連携のもとに、その学生の観察・参加・実習に当たる。
- （3） 長きにわたる中高一貫教育の伝統に基づき、高度な教育研究を実践し、その成果を積極的に公開する。

附属福山中・高等学校の教育理念（目指す生徒像）

- ・フロンティア精神をもって、絶えざる創造と自己更新を続ける人間
- ・21世紀、地域社会に根ざしつつ、国際社会に目を向ける人間
- ・自由と自主の精神をもって、学問的探究と創造をする人間
- ・学問的探究における論理的・批判的思考力と科学する能力をそなえた人間
- ・自由と自主の精神をもって、日本と世界の真に豊かな社会を創造する人間

附属福山中・高等学校の教育目標（学校全体としての教育目標）

- ・自由と自主の精神を追及し、豊かな教育環境を創造する。
- ・広く深い教養と確かな学力を保証し、生徒一人ひとりのニーズに応じた進路を実現する。
- ・備後を中心とした地域社会に貢献する人材を育成する。
- ・グローバル社会をリードする人材を育成する。
- ・質の高い教育実践を追及し、先導的な中等教育カリキュラムを提案する。

令和6年度 学校経営重点目標

広島大学附属福山中・高等学校

1. 中期計画について（附属学校園に関する目標）

【12-1】令和6年度年度計画及び評価指標

- ・人間社会科学研究科教職開発専攻(教職大学院)及び教師教育プログラム教員等と教師教育や教員研修・教員養成のあり方について検討し、附属学校教員の研修と教育実習指導の状況について検証する。
- ・STEAM教育、ESD（Education for Sustainable Development）の推進等の先導的な実験的カリキュラムの導入の検討及び指導方法を習得するための研修プログラム等の開発を進める。
- ・国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める
- ・国等からの委託事業の情報収集と共有を行い、国からの委託事業及び大学と連携した教育研究活動に関わる協力を実施する。国からの委託事業に採択された場合の学校園支援策等を検討し、実施する

【12】 1-1

SSH、WWL、研究開発学校等の国からの委託事業、及び本学の「大学・附属学校間における教育・研究協力依頼に関する取扱要項」に基づく大学と連携した教育研究活動に関わる協力件数を19件以上実施する。

- ・附属学校教員の研修と教育実習指導の状況の検証について協力する。
- ・附属学校教員の教育研究活動の支援体制強化について検討する。
- ・令和4年度から行っている WWL のカリキュラム開発に基づいて、WWL「個別最適な学習環境」の構築を進める。
- ・大学との教育研究協力件数について、昨年度と同じく、5件程度を実施する。

2. 中期目標に対する本部からの要望～「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて（平成 29 年 8 月 29 日報告書）」を踏まえ～について

【大学・学部との連携】

- ① 研究大会においては、助言者を広島大学に依頼し、共同研究授業を開発し、公開する。
- ② 理工学系の学部などを含め、より広範な分野での連携を模索する。

【地域との連携】

- ① WWL 連携校と共同で実施してきた教育プログラム等を活用し、先導的なカリキュラムの普及を図るとともに、その手法を地域の学校に広める。
- ② 出張授業や他校の研究会に対する指導助言者の提供、本校の授業公開を活性化させるための組織的方策を検討する。
- ③ 生徒指導に関しても情報を収集・分析・共有する。

【役割・機能の見直し】

- ① 中等教育学校のモデル校としての役割について、全附連や中附連を通じて情報収集し、見直しの材料とする。
- ② 中等教育学校における教育課程編成の具体的な方向性について、本校教員間にて広く議論する。

【働き方改革】

業務全般の効率化・選択化による教職員の余力の捻出

- ① 部活動改革について、外部指導員活用の継続
- ② ソーシャルワーカーの活用
- ③ ペーパーレスの拡充(会議および授業)
- ④ 新たな教務支援システムの導入検討
- ⑤ 各種届出における WEB システムの活用検討

3. 昨年度からの継続事項

安全な学校環境の実現:

生徒および教職員の健康と安全が保障されるよう、より快適で安全な学校環境を実現する。

- ・管理職および産業医との面談継続
- ・スクールカウンセリングの継続
- ・いじめ問題に対する組織だった対応の継続